

# Principal Correspondence

## リリーベールのルールについて

リリーベール小学校ではルールについてこのように考えています。すなわち、

- ①子どものルールは最低限で良い。やたらと校則は作らないようにしよう(大人のルールブックがやたら厚くてすみません。書かれてある事を学校は労力と費用をいとわず必ず守ります。ルールを一つ増やしたらできるだけ何か一つ削る方針です)。
- ②しかし検討して決めた子どものルールは必ず例外なしに守るように指導する。
- ③例えば女子をたたいてはいけないとか、下級生をいじめてはならないとか、理屈抜きで「ならぬものはならぬ。」と有無を言わさず守らせるものもありますが、できる限りこのルールは何故守らねばならないのか、1年生にも、解っても、解らなくとも理由を説明する。

集団生活ですから、ルールを守ったほうが、みんなが快適に暮らせるし、本来の活動に集中できることを知らせていきます。



ルールは下記のような効果があります。

- ①心的エネルギーの節約になる。

ルールが決まっているとその都度「どうしようか」と考え込む必要が無い。本来の活動に全集中できる。部屋の入り方、挨拶の仕方、服装の着方・・・慣れば全てにおいて楽になります。

- ②集団の所属感が増す。

例えばハウスは助け合う。移動は列になって歩く。「我々意識」を育てまとまりを創ります。個性をつぶさない程度の規範はグループの存続上、必要なものです。

- ④アイデンティティ形成に役立つ

例えば上級生は下級生の面倒を見ること、服装はきちんと着る、音を立ててスープを飲まないなどの文化の共有は「自分はやがてリーダーシップを発揮する立場になるのだ」というアイデンティティの形成に有効です。医師には医師の、ナースにはナースの職業倫理があります。それに縛られることによって、人は、自分は、何者であるという職業上の使命感を確認することになるのと同じです。



ルールではありませんが、今の社会、自主性とか個性尊重の美名のもとに放任しておく、身につく規範も限られてきてしまいます。高齢者をいたわる感情とか、いじめられていたら助けなければならないという正義感とか、自国と同じように外国の国旗に対する敬意とか、人種偏見と戦う勇気などは、放っておいて子どもから自主的に生れてくるものではありません。教育が必要です。保護者も教師も常に教育の機会があり責任は重大だと感じるこのごろです。

# Principal Correspondence

## 良い習慣が成功への近道 —今は習慣を身に付けていく時期—

小中学校のときに学校の勉強ができる人に共通する事項

- ① 身の回りの始末が上手・・・お手伝いもちゃんとやる。
- ② 自己学習の習慣が身についている・・・宿題をすぐやる。
- ③ 自然体験が豊富・・・外遊びキャンプの体験などが多い。
- ④ 上質の幼児教育を受けている。
- ⑤ 自分の感情を溜め込まず、上手に表現する。  
幼稚園には「表現」という指導要綱のジャンルがあります。
- ⑥ 親や先生がいつも認めてくれる。



勉強はそれらの習慣の結果です。勉強に限らず一流のアスリート、アーティストも皆こうした習慣をしっかり地道にやってきたのです(野球選手のイチローも大谷翔平もきちんとしていることはご存じの通り)。

ではその逆はどうでしょう？小学校期に



- ① いつもだらしく忘れ物やなくし物が多い。
- ② 宿題を先延ばしにして、結局忘れる。
- ③ 家でテレビゲームばかりしている。外出してもショッピングモール。
- ④ 体験型でなく、詰め込み型、指示まちの保育に慣れてきた。
- ⑤ 言葉で自分の気持ちを表現できず黙って溜め込んでしまう。
- ⑥ 周りからいつもがみがみ口うるさく叱られるだけ。

こういう子が思春期の難しい中学生や高校生になって突然挨拶ができ、自己管理に目覚め、自主的に勉強するようになるのでしょうか？

1年生から4年生までは特に重要です。良い自学学習習慣は一生の宝です。ご家庭と学童教室が、ぜひ同じ方向を向いて子どもたちの可能性を伸ばしていきましょう。

